

地域を愛し地域に誇りを持った生き方ができる 児童の育成をめざして

檀原市立畝傍北小学校

1. はじめに

本校は、畝傍山の東、檀原市のほぼ中心部に位置し、創立から 150 年をこえるたいへん歴史の古い小学校です。東側には国道 169 号線が、西側には近鉄檀原線が走り、畝傍御陵前駅に程近い交通の便のよい場所に位置しています。また、大型スーパーや飲食店・医療機関等がたくさんある市街地でありながら、檀原神宮をはじめとした様々な歴史的遺産に囲まれた自然の豊かな校区です。

2. 教育目標

「豊かな人権感覚とたくましい体力・気力を身に付け、自ら考え自ら学ぶ児童の育成」を教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。「一人一人を大切にしたい授業の創造」という研究主題の下、『聴く・話す・伝え合う力』を育てることをめざし、『学び合い』や『対話』を多く取り入れ、体験を通して主体的に学べる教育環境を大切にしたい取り組みを進めています。

3. 学校での取組

【おおくぼまちづくり館】

『おおくぼまちづくり館』は、1917 年（大正 6 年）に始まった洞村の移転事業によって移築された住宅を改修し、2002 年（平成 14 年）に開館されました。

洞村の移転と地区改良事業（まちづくり）の歴史を学ぶとともに、地域住民や人権確立をめざす活動に参画する人々の「学習と交流の場」として、歴史や地場産業に関する資料などがたくさん展示・紹介され、さらには洞村跡の「フィールドワーク」の拠点としても活用されています。

畝傍北小学校でも、放課後人権学習の一環として多くの児童が見学に訪れ、豊富な資料の見学や、聞き取り学習を通して、差別の歴史や人権の大切さについての学習に取り組んでいます。



おおくぼまちづくり館



館内を見学する児童たち

【洞村の移転】

畝傍山の中腹にあった洞村が、神武御陵を見下ろす位置にあることが問題となり、1917年（大正6年）国の役所から、「村全体を移転せよ」との申し入れがありました。

最終的には、土地を「天皇に献納する」という形で村を移転させることになりましたが、人々はみんなで協力して、住みよい村を作るための努力を忘れませんでした。

畝傍北小学校では、毎年6年生が現地を訪れ、うっそうと生い茂った草むらや共同井戸の跡を前に、当時の人々の生活に思いを馳せながら、移転の歴史について深く学んでいます。



洞村にある共同井戸の跡

【ホテアオイの植え付け】

城殿町にある本薬師寺跡（国特別史跡）の休耕田で、毎年7月に2年生の児童がホテアオイの苗の植え付けを行っています。地元の農家らで作られる「霜月会」のみなさんが、冬の間に大切に育ててくださったホテアオイの苗を、子どもたちが水着姿で田んぼに入り、手作業で泥だらけになりながら1株ずついねいに植えていきます。

植え付けられたホテアオイは、8月中旬から10月頃にかけて淡い紫色の花を田んぼ一面に咲かせ、たくさんの人たちがカメラを手に訪れる観光名所となっています。

子どもたちが農業に親しむことを目的とした取り組みですが、ホテアオイについては苗の植え付けだけではなく、咲いた花の観察に出かけたり、「霜月会」の方から野菜作りについてのお話を聞かせていただいたりと、地域の方々との繋がりを大切にした学習として位置づけています。

（コロナ禍以降、現時点で取組は中断しています。）



泥んこになりながら苗を植え付ける子どもたち



田んぼ一面に咲き乱れるホテアオイの花

4. おわりに

『おおくぼまちづくり館』については、放課後人権学習だけではなく、学校全体で取り組むべき人権学習の大切な礎として、全児童が利用し学習する場として位置づけていかなければなりません。

特に6年生児童が、毎年訪れている洞村跡の現地見学とリンクさせながら、郷土の歴史から学ぶ人権学習の最も重要なスポットとして、今後も大切にしていかなければならないと考えています。

ホテアオイの植え付けについては、子どもたちが「自ら地域づくりに貢献している」という意欲と達成感を持って取り組んでおり、これからも「霜月会」の皆さんのご協力をいただきながら続けていきたい、地域の方々に喜んでいただける大切な行事として位置づけていきたいと思います。